

検証項目： 情報共有（まとめ）

①検証項目のよいところ・強み・頑張ってる！と思うところ

- ・はぐくむ条例の冊子を全戸に配布して、条例の周知をした。
- ・その冊子の中に、「まちづくりって私にもできるの」という項目で、具体的に書かれている。
- ・はぐくむ条例について、団体での説明会やワークショップなどを行った。
- ・はぐくむサポーターの登録を呼びかけ、情報を提供している。
- ・長期総合計画により、市の将来像が見えやすくしようとしている。

②検証項目の改善してほしいところ

- ・インターネットの環境にない方のために、紙面や回覧のような情報提供も必要。
- ・橋本市に住んでいる、または橋本市で働く外国籍の人も含まれるはずであるため、橋本市が市民であると認めていること、そして、参加する権利があることをまずは知ってもらいたい。
- ・全職員に「はぐくむ条例」を知って頂き、浸透を期待したい。
- ・同じような情報が多い。

③検証項目に対する評価

A：よくできている	B：概ねできている	C：不十分
A	-----	B ----- C

④評価の判断理由など

（目指すべき姿）

⑤検証項目が、こうだったらいいのにな～、こうなってほしいな～と思うところ

- ・小さいグループの本音の話し合いの場があればいいと思う。
- ・市民参画できている地域の事例を知る機会があればいいと思う。
- ・ボランティアする人にもたくさんの情報の提供がある。

⑥検証項目が理想の状態になるために、それぞれができることはなんだろう？

さらに充実させるために…	行政	・ホームページを検索しやすく。 ・小さい集団にも、条例を説明していく。 ・日本語以外を母語とする人が橋本市に貢献していることの啓発。 ・他言語を母語とする人への配慮。 ・職員の「はぐくむ条例」「協働のまちづくり」の認知向上をめざす。 ・出前講座などを実施すると、より多くの市民にわかってもらえる。
	市民	・市民は差別や偏見を取り払うよう努力を重ね、近所、同僚、クラスメイトなど、どのような人が周りにいて、どんなニーズや魅力があるのかを積極的に知ろうとすること。
改善するために…	行政	・はぐくむサポーターを増やす。
	市民	・はぐくむサポーターになる。 ・知り合いにもはぐくむサポーターのことを勧める。

検証項目： 市民参画（まとめ）

①検証項目のよいところ・強み・頑張ってる！と思うところ

- ・「地域担当職員制度」がある。
- ・はぐくむ条例のパンフレット「まちづくりって、私にもできるの」の項目で、どんなことがまちづくり、参画、協働につながっているのか実感できる。
- ・地区公民館は情報共有も市民参画もできるよい場所。
- ・ボランティア登録をしている人が多い。

②検証項目の改善してほしいところ

- ・区長、公民館運営委員、市民公募の委員等にならないと市や市職員が身近ではない。
- ・政策決定の過程に女性や市民の意見を聞くプロセスが少ない。
- ・みんなが参加できる行事が少ない。
- ・子どもが少なくなってきたので、若い人と一緒に考えられる環境が必要。

③検証項目に対する評価

A：よくできている	B：概ねできている	C：不十分
A	-----	B

④評価の判断理由など

（目指すべき姿）

⑤検証項目が、こうだったらいいのにな～、こうなってほしいな～と思うところ

- ・政策決定の過程にもっと女性や若い世代などが参加できるようになると良い。
- ・一市民である自分自身が関心を持って行動することで地域や市が変わるという実感が持てるまち。
- ・市政に若い市民委員がかかわる。
- ・市民公募委員が全体の50%?! 男女同比率、偏りのない多種多様な委員。

⑥検証項目が理想の状態になるために、それぞれができることはなんだろう？

さらに充実させるために…	行政	・市民参画での成功事例を市民や職員に積極的にお知らせし共有する。 ・市が設置する審議会、委員会における市民公募委員の参画の有無、参画の状況を指数とする。 ・学識者、当職、公募委員の割合、男女比を検討する。 ・審議会、委員会の設置の際に、市民委員を公募する。 ・無作為抽出で市民委員を選ぶ。
	市民	・口コミで輪を広げる。 ・市民の意識変化。観客から当事者へ。 ・市政は、案外、私たちの力でも変えることができるのでは無いかと！と思う
改善するために…	行政	・はぐくむ委員会の認知度をあげる。 ・市民公募委員経験者会を開催し、意見交換を行う。 ・自治体の政策過程すべてに市民公募委員が入る！ ・子どもたちに借金を残さない！
	市民	・自分の住む町に関心を持ち、広報などを読むようにする。 ・同じ人に負担がかからないように、まず自分で行動する。 ・はぐくむ委員会の認知度をあげる。 ・市民公募委員経験者会を開催し、意見交換を行う。 ・市民コントロール。市民主導の活動に行政をまぎこむ！

検証項目：協働のまちづくり（まとめ）

（目指すべき姿）

①検証項目のよいところ・強み・頑張ってる！と思うところ

- ・ボランティア登録をしている人が多い。
- ・地域担当職員制度、地域づくり活動交付金、地域運営組織検討懇話会の実施。
- ・地域づくりの取り組みや、市職員の研修や自主研究グループについての取り組みが実施されている。
- ・活発な地域は、高齢者が元気。

②検証項目の改善してほしいところ

- ・ボランティア登録者は多いが活動しきれていない。
- ・人材を持て余しているように感じる。
- ・地域での動きが分かりにくいし、問題点の共有ができていない。
- ・本当に必要な取り組みがあるのならばどんな事でも実施する。
- ・各組織やボランティア団体だけではなく地元企業を巻き込む。
- ・日程調整を行い、イベントなどの重複を解消。
- ・お金がないから自分たちで何とかするように言われていると誤認識されていることが多い。
- ・子育て環境は改善されてきつつあるが、社会の状況の変化が速すぎて対応しきれていない？

③検証項目に対する評価

A：よくできている	B：概ねできている	C：不十分
A	-----	B-----C

④評価の判断理由など

⑤検証項目が、こうだったらいいのにな～、こうなってほしいな～と思うところ

- ・ボランティアの方々にもっと活動、活躍する場、情報の提供。
- ・橋本市に住んでいることを自慢出来る。
- ・都会に負けない地域の魅力は何かを考えることの出来ること出来る市民。
- ・まちづくりに参加したくても、状況や環境がそれを許さなければ難しいため、環境づくりにも力を注ぐ。
- ・環境づくりを通して、はぐくむ条例の策定意義が策定関係者以外にも伝わる。
- ・「まちづくり休暇」や子育て中の方が子どもを連れて（預けて）まちづくりに参加できるようにする。
- ・障がいのある人への権利保障
- ・貧困がつくっているまちづくりへの参加に対する壁をなくす。
- ・小学校高学年や中学校ではぐくむ条例の授業をし、小さい頃から意識づけをする。

⑥検証項目が理想の状態になるために、それぞれができることはなんだろう？

さらに充実させるために…	行政	・地域や施設などとの連携を密にとり、ボランティアの方や人材を動かせるようにする。 ・間を取り持つ。 ・リスクよりも熱意。 ・各地域でのイベントをベンチマーク。 ・イベントなどの日程調整の旗振りを行う。 ・実際に協働してみる。
	市民	・市民はもっと主体性をもって動けるようにアンテナを張っておく。 ・地域の役員だけに任せない。 ・周りのせいにしない。 ・もっと地域に対して勉強する。 ・どんな人が橋本市にいるのかを学んだり、ニーズを主張したり、違いをサポートしたり、お互いの権利を尊重。 ・実際に動いてみる。
改善するために…	行政	・お互いに色々と言分や言い分はあると思うが、安心して住みやすい橋本市を一からつくり上げていくような気持ちで信用し合って話し合う。 ・市民が理想を掲げた時本気で協力。 ・組織内での足の引っ張り合いをしない。
	市民	・お互いに色々と言分や言い分はあると思うが、安心して住みやすい橋本市を一からつくり上げていくような気持ちで信用し合って話し合う。 ・信用できる市民になる。 ・普段から地域への関心を高め家庭や身近な人々と地域について話し合う。

ワークシート そのほかのご意見 《概要》

※「そのほか」とした意見でも、情報共有・市民参画・協働のまちづくりの趣旨であるととれるご意見に関しては、上記3項目に組み込んでいます。

●地域運営組織

- ・地域運営組織の設立に向けての進捗状況と議事録等の情報公開が必要。
- ・地域社会の一員として、自主的にかつ持続的な地域運営組織に向けて、年代を越えての理解や活動が必要。

●はぐくむ条例が認知されているかどうか

- ・行政は、条例についてしっかり学べる、足を運びやすい勉強会などを開催してほしい。
- ・市民は自分で知ろうとする気持ちを持ち、自分から動くようにする。

●市政運営（総合計画）

- ・新しい総合計画はできたばかりだが、その計画から見た現実はどうなのか？を知りたい。
- ・社会の状況の変化が速すぎて対応しきれていないところがあるのでは。

●市内イベント日程の重複解消

- ・行政にイベントなどの日程調整の旗振りをしてほしい。
- ・市民は各自が関わるイベント日程について考える機会をつくり、地域内及び各地域間で議論を行う。（各地域間での交流が生まれ、市民同士の協働につながる。）

●運転マナー向上

- ・老若男女が交通ルールを理解し、交通事故がゼロに。交通ルール、マナーの周知。

●3世代居住の推進

- ・3世代で暮らすための住居の新築、改築が必要。市民は家族の絆を取り戻す必要がある。

●移住者への支援

- ・市民はIターン者にも積極的に話しかけ、地元市民との交流の場を持つべき。

●会議運営の効率化

- ・行政は議題と所要時間を明確にして会議準備を行う必要がある。
- ・行政は活発な議論ができるように、出席者に事前に資料を配布する必要がある。

●車なし生活者への支援

- ・車がなくても生活できる交通環境を整える必要がある。

●耕作放棄地、山林のゼロ化

- ・農家、非農家との協働を促す。市民も近隣の耕作放棄地、山林の草刈りなどに参加する。

●条例の多言語翻訳について

- ・手話翻訳や展示翻訳、外国からの移住者の母語への翻訳。
- ・市民もどんな人が周りにいて、どんなニーズや魅力があるのか知ろうとする。

●条例の文言

- ・前文や第3条に気になる表現がある。
- ・どんな市にしたいのかのビジョンをもっと明確に持ち、話し合う必要がある。